CASE 03

三原で農業を始めたい

三原市では、米や野菜の栽培が盛んな「さとやまエリア」、柑橘類の栽培に適した「しまエリア」など、地域の気候や環境を活かした農業が行われています。
新規就農をめざす人への支援体制も充実しています。

＼ 三原の旬をお届けします！ ／

四季を通じて育まれる多彩な農産物に出会えるのが、市内に点在する道の駅やJA直売所などの販売拠点です。
年に一度開催される有機野菜にこだわったマルシェにも毎年多くの人が訪れ、にぎわいを見せます。生産者にとっても、自ら育てた農産物を直接届けられる機会として親しまれています。

三原の農産物が
売れるところ！
買えるところ！

JAやっさふれあい市場 三原店

三原市皆実4丁目7-28
電話番号　0848-63-3446
営業時間　9時～17時
休 業 日　年末年始

道の駅 よがんす白竜

三原市大和町和木1650-1
電話番号　0847-35-3022
営業時間　9時～17時（土日祝～18時）
休 業 日　第3木曜日および年末年始

JAやっさふれあい市場 本郷店

三原市下北方1丁目1-11
電話番号　0848-85-0485
営業時間　9時～17時
休 業 日　年末年始

ココラサン

八天堂ビレッジ「空の駅オーチャード」施設内で、季節により地域のオーガニック野菜や食材の販売や体験イベントを開催。

道の駅 みはら神明の里

三原市糸崎4丁目21-1
電話番号　0848-63-8585
営業時間　9時～18時
休 業 日　第3火曜日

有機農家の収穫祭

毎年秋頃に開催される、三原市内外の農業者たちによる、みて・ふれて・たべて・つながるマルシェです。

全農チャレンジファーム広島
三原農場

チャレンジファーム広島・三原農場では、JAグループの指導のもと、三原市で就農をめざす人が実践的な農業のノウハウを学べます。研修は2年間。1年目は座学を中心に栽培技術や農業経営の基礎を学習し、2年目は高坂町の農場でトマトとほうれん草の栽培から収穫、出荷までを実践します。研修終了後もJAによる営農指導が継続。生活の見通しを持ちながら農業に挑戦できる仕組みは、移住就農を考える人にとって心強い選択肢です。

農場で収穫したトマト「だるまのほっぺ」は、甘くてみずみずしいと好評

丁寧に育てたほうれん草。朝露をまとってキレイ！

移住の際には、三原市の各種移住支援が利用できます！

営農経済センター
センター長
林さん

研修期間中は全農ひろしまに雇用され、給与が保障される点も大きな魅力です！

営農資材部 次長
広島営農技術センター
センター長
片島さん

全農チャレンジファーム広島の詳細・募集については こちらをご覧ください！

教えて！センパイ移住者さん！

奥田高宏さん
愛媛県からUターン

▶ 何を栽培している？

みかんや不知火など約20種類の柑橘です。もともとはエンジニアでしたが、柑橘栽培をしていた祖父が亡くなったのを機に、「このまま畑を放っておくのはもったいない」と就農を決意。愛媛での研修を経て、Uターンしました。

▶ 三原での農業の魅力は？

温暖で晴れの日が多く、柑橘栽培にとても適している環境です。就農した際には、JAや行政から苗木の確保や栽培情報の提供など、サポートしていただきました。現在は周囲の畑も引き継ぎ、圃場は2.6ヘクタールまで拡大。新たな品種への挑戦も広がっています。

▶ 今後の目標は？

私たち夫婦に加えアルバイトも雇っていますので、チームとして経営を軌道に乗せたいですね。柑橘でジュースも作り、6次産業化にもつなげています。若手を育て、柑橘栽培を息長く続けていくことが目標です。

高田勝彦さん
香川県から移住

▶ 何を栽培している？

白ネギやピーマン、トウモロコシなどです。北海道で暮らしていた頃、白ネギ栽培に触れ、「これは一生できる仕事だな」と興味を持ったのが就農のきっかけです。香川県でレタス栽培を学んだ後、三原に移住し、大和町で農業を行っています。

▶ 三原での農業の魅力は？

沿岸部と山間部、それぞれの環境を活かした農業ができることですね。移住後に就職した農業法人では、機械の扱い方や栽培技術、出荷方法などを学び、その経験が今も役立っています。独立の際には、JAや地域の農家さんが畑を紹介してくれたり、農機具屋さんが中古機械を探してくれたりと、多くの方に助けられました。

▶ 今後の目標は？

少しずつ安定して作れる作物を増やしたいですね。いずれは、身につけた技術を地域や次の世代に還元していけたらと思っています。